

PRAEVIDENTIA DAILY (12月16日)

昨日までの世界：衆院選での連立与党圧勝は殆ど材料とならず

昨日も先週末の原油安・米株安継続を受けたドル/円の下落とカナダドルの下落が続いたかたちとなった。ドル/円は、週末の衆院選で連立与党が3分の2議席を獲得する大勝利となったことは、アベノミクス継続確認により本邦株高・円安圧力となるはずだったがそうした動きはあまりみられず、むしろ早朝には118円台後半から一時117円台へ下落する局面がみられた。欧州時間中は118円台を回復していたものの、NY時間に原油価格と米株安が下落すると、ドル/円も再び117円台へ下落、一時117.54円と11日の直近安値である117.43円に迫る水準へ下落した。

米経済指標はまちまちで、NY連銀製造業景況感指数は-3.6と前月および市場予想を大きく下回った一方、鉱工業生産は前月比+1.3%と市場予想の倍程度の伸びとなった。ドルは指標結果を受けて上下したが、強い方向性は出ていない。

本邦短観調査結果もまちまちで、大企業製造業DIは12と前回および市場予想を若干下回った一方、大企業非製造業DIは16と前回および市場予想を上回った。

また、原油安を受けて産油国通貨の下落が大きく、主要通貨ではカナダドルが対米ドルで0.8%下落した。ロシアルーブルも大幅下落が続いたが、本日早朝にロシア中銀が政策金利を10.5%から17%へ大幅に引き上げると発表したことから、反発している模様だ。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

ドル/円	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
	-0.8	+0.03	+0.03	-0.00	+0.03	+0.01	-0.02	-0.6	-1.6	-2.1
ユーロ/ドル	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
	-0.2	-0.04	-0.01	+0.03	-0.01	+0.00	+0.01	-2.5	-0.6	-0.08
ポンド/ドル	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
	-0.5	-0.05	-0.02	+0.03	-0.01	+0.00	+0.01	-1.9	-0.6	
豪ドル/米ドル	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
	-0.4	-0.06	-0.03	+0.03	+0.05	+0.06	+0.01	-0.6	+0.5	-1.1
NZドル/米ドル	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
	-0.4	-0.03	+0.00	+0.03	-0.06	-0.05	+0.01	-0.6	+0.5	-1.1
米ドル/加ドル	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
	+0.8	+0.07	+0.03	-0.04	-0.02	+0.01	+0.03	-0.6	-3.2	-1.1

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：原油と株価睨み

きょうの注目通貨：USD/JPY↓、EUR↑

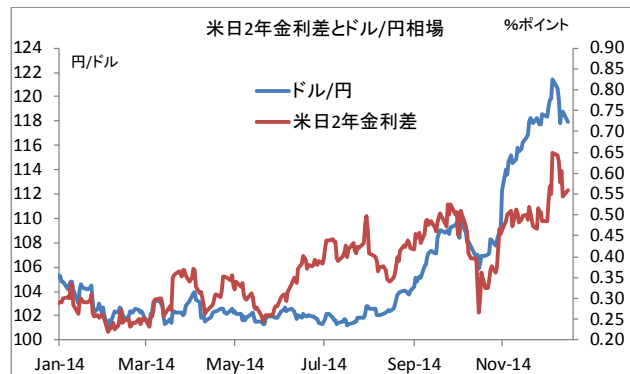
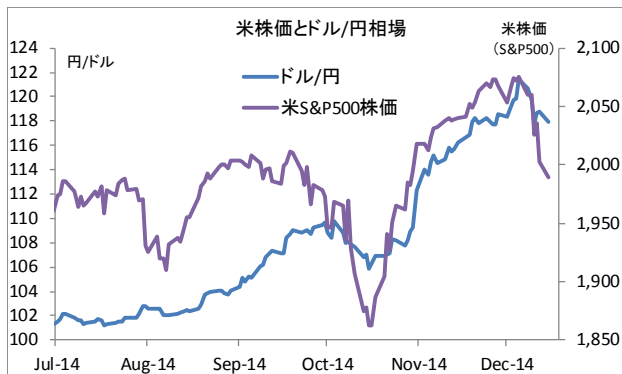
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
NZ 半期経済財政見直し	9:00			
DeBelle・RBA 総裁補発言	9:15			金融市場担当
RBA 議事要旨	9:30			
中国 12月 HSBC 製造業 PMI 速報	10:45	50.0	50.0	
英 BoE 金融安定報告発表	16:00			
フランス 12月 製造業 PMI	17:00	47.6	48.6	
フランス 12月 コンポジット PMI	17:00	48.4		
ドイツ 12月 製造業 PMI	17:30	50.0	50.4	
ドイツ 12月 コンポジット PMI	17:30	52.1		
スウェーデン中銀金融政策決定	17:30	0.0%	0.0%	利上げ開始時期予想後ずれの可能性
ユーロ圏 12月 製造業 PMI	18:00	50.4	50.5	
ユーロ圏 12月 コンポジット PMI	18:00	51.4	51.5	
英 11月 CPI 前年比	18:30	+1.3%	+1.2%	
ドイツ 12月 ZEW 期待指数	19:00	11.5	20.0	予想通りだと2か月連続改善
米 11月 住宅着工件数	22:30	101 万件	104 万件	
米 11月 建設許可件数	22:30	108 万件	106 万件	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

先週に続き、原油価格と米株価の下げ止まりが確認できないことから、経済指標よりも原油価格と米株価を睨んだ展開が続くとみられる。こうした中、原油や米株価が更に下落するようだと、ドル/円相場は11日に付けた直近安値である117.43円を割り込む展開もあり得よう(下図を参照)。原油や米株価が自律反発に向かえばドル/円も反発が予想されるが、持続的な反発には、17日のFOMCでタカ派化せず利上げを急がない姿勢を示すこと、あるいは主要産油国が減産を決定し原油市場の需給見通しが改善することなどが必要だ。

ユーロは、12月17日にギリシャ大統領選を控えているほか、来年前半のECB量的緩和導入期待が根強く、ユーロ安圧力が働いているものの、先週以降はどちらかというと買戻しが優勢となっている中で、本日発表のユーロ圏PMIやドイツZEW期待指数が予想通り改善を示すようだと、更に買戻しが入るリスクがある。

スウェーデン中銀については、政策金利はゼロ金利で据置が予想されているが、インフレ率がマイナスで推移する中で更なる緩和期待が根強く、スウェーデン中銀自身の政策金利予想パスが後ずれされ、利上げ開始予想時期が2016年半ばから2016年末、あるいは2017年へシフトされる可能性があり、その場合はクローナ売りとなる。但し、昨日既にクローナは対ドル、ユーロで大きく下落していることから、何らかの緩和措置が事前に織り込まれている可能性があるほか、政策金利予想パスの変更も微調整に留まるようだと、むしろクローナが買い戻されるリスクもあるため、注意が必要だ(当社12月6日付週次レポート「SEK：リクスバンク・リスク」も参照)。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641